

会 議 要 旨 書

会議名	第3期三鷹市生涯学習審議会第3回定例会 第32期三鷹市社会教育委員会第3回定例会
日 時	令和4年2月16日(水) 18時30分～20時15分
場 所	三鷹市生涯学習センターホール及びオンライン
出席委員 (18人)	田中雅文 矢崎喜美子 齋藤智志 廣瀬圭子 青木玲子 生田美秋 宇山陽子 倉田清子 小林七子 佐伯友 和田光広 進邦徹夫 高橋伸 今村範子 雨谷由夏 太田みつこ 江口聡 遠藤弘子
欠席委員 (2人)	鈴木弘七 勝野能光
行政職員 (6人)	スポーツと文化部長大朝摂子 スポーツと文化調整担当部長高松真也 生涯学習課長加藤直子 生涯学習課主査下原裕司 同主事齊藤満里奈 同主事笹尾梨良
会議の公開・ 非公開	公開
傍聴人数	0人
<p>1 開会 (事務局より委員の出席状況、傍聴者の有無、会議要旨の公開について報告し、配付資料の確認を行った。)</p> <p>2 議題</p> <p>【会長】今日は、「三鷹市生涯学習審議会・三鷹市社会教育委員会第3回定例会の意見」の策定に向けたテーマの検討がメインになる。</p> <p>【生涯学習課長】資料1をご覧ください。市及び教育委員会に提出する意見を作成するに当たり、委員の方々から事前に意見をいただいた。それらを箇条書きにし、キーワードを記載した。意見を出された委員の方々は、意図が合っているかどうかご確認いただきたい。</p> <p>次に、資料2をご覧ください。資料1を基に、会長と事務局で分類作業を行った。会長から内容を説明していただく。</p> <p>【会長】資料1は、各委員から出されたテーマ、要旨、項目を並べた上で、集約するための大きくくりの言葉で位置づけたもので、それを総合的にまとめたものが資料2の表になる。今、三鷹市ではSDGsを推進するということで、いろいろなプロジェクトがSDGsのどの目標と関係するのかわかりづらく、位置づけていくことが重要になっているので、SDGsの各項目との対応関係も併せて示している。</p> <p>いきなりまとめが出ているが、皆様から出された多様な意見を整理しながら、5本ぐらいの柱で考えるようにした。4つか5つのグループに分けながら、グループごとに議論を詰めていただき、また全体で議論する。皆様からの意見がかなり多様なので、1つのテーマで全部を通すということは非常に難しい。また、市の生涯学習推進政策も単純なものではなく、</p>	

多様な視点、多様なニーズに応じていかなければいけないので、いくつかの柱で考えるということが妥当だと考える。暫定的に5つぐらいの柱にしている。

まずは、生涯学習プランにもあるが、「学びと活動の循環」である。2018年に文部科学省が出した直近の答申でも、一つのキーワードが「学びと活動の循環」であった。皆様からの意見もそれに関係するものが随分出ていたので、これを1つ目の柱にした。例えば、「自己実現から地域貢献へ」という趣旨の意見があった。自己実現とは、自分自身の学びであり、自身の自己実現のために学んだことをもっと地域や社会のために活かしていけば、またその経験に基づいて新しい学習ニーズが起これり、また学ぶ。学ぶことと活動、自己実現と地域貢献が循環的に発展していくというイメージである。

次に、需給融合型という趣旨の提案があった。需給融合というのは、需要側はいわば行政サービスを受ける市民、供給側は行政サービスを提供する行政の側である。市民と行政の協働を考えれば、必ずしも市民は需要側だけではなくて、供給する側にも回るということがある。生涯学習の場合には、需要と供給が融合する。つまり、自分が学びたいことを自分自身で講座に組んで提供するとか、また自分自身が提供側に回っているが、実はそれを通して自分自身も学んでいるとか、そういう需要側と供給側の立場が融合している状態が生涯学習の活動の場合にはかなり見られる。だから、それをもっと発展させようという趣旨である。

それから、「アクティブラーニング」というのは、学校教育の中で随分使われて、今は文部科学省の政策上は「主体的・対話的で深い学び」という言葉で言っているが、ただ知識を吸収していくというだけではなく、レポートを書くとか、発信するとか、体験的に学んでいくとか、いわゆる動きのあるような学び、そういうものは、それを通して地域活動そのものが実は学びでもあるということになるので、この領域に入る。

「アフターコロナ」は、いろいろな項目に絡んでくる。生涯学習の活動も、ただ吸収するだけではなく、地域活動、社会活動を行いながら学ぶということがコロナ後の社会にとってはまた重要なことではないかということで、このような柱を一つ立てている。

「スクール・コミュニティ」は、コミュニティ・スクールを通して地域が活性化することが政策上目指されている。実際、コミュニティ・スクールに関わる委員や協力する市民は、それを通して地域での自分のアイデンティティとか、そういうものを確認していくことがある。「学校を核とした地域づくり」と言うか、学校を拠点にしてコミュニティをつくっていかう、地域をつくっていかうという考え方だが、三鷹市はそういう考え方の先進的な地域でもあるので、「スクール・コミュニティ」という観点の中で生涯学習政策を展開することはとても重要である。これは、教育委員会との連携の下に進んでいくものだと考える。

それから、「人生100年時代」も、三鷹市の政策全体にとってとても重要なものになる。これは、福祉の領域だけではなくて、生涯学び続ける、そういう柱は必要だろうということで、「自己実現から地域貢献へ」というのは、「人生100年時代」という中で、高齢期において学びを吸収するだけでなく、学びながら地域で活動していくことが重要ではないかということである。

「アフターコロナ」は、学びを通して地域で活動するということを考えると、「アフターコロナ」も「人生100年時代」の柱とかなり緊密につながる。

「情報化」は、大きくくると2通り側面がある。1つは広報やチラシなど、いろいろな媒体があるが、これからはSNSなどオンラインを上手に活用する必要がある。SNSということだけではなくて、行政の発信するツイッターなりフェイスブックなりの情報を、いかに一般市民がキャッチして、自らSNSを通して拡散してくれるか、その辺りを考えなければいけないと思う。これは「アフターコロナ」の非常に重要な課題になっている。

もう1つは、同じ「アフターコロナ」から見たときに、オンライン学習がウィズコロナの段階で相当発達してきているので、オンライン学習の面から見ても、「アフターコロナ」が非常に重要になってくる。

補足として記載したのは、関係する概念である。「人生100年時代」の概念は、高齢者や世代間交流、地域活性化である。「情報化」についてはICTとかオンライン、こういうことが重要なキーワードになってくる。

生涯学習プラン2022はコミュニティ創生が柱になっている。「需給融合型の学習活動」は、新しいコミュニティづくりに広がっていく。「対話・コミュニケーション」という観点からの意見を出した方もいるが、新しいコミュニティの中でのコミュニケーションはどういうものなのかということである。コミュニティの中には、当然だが市民参加とか参画ということが入ってくる。

最後に、SDGsについて、関連する項目を記載している。

このように、5つの柱を考えてみたが、結論というわけではない。皆様からご意見をいただきながら修正したり、抜本的に組み替えるということもあり得るかと思う。

【A委員】 私が意見として出した持続可能なシステムづくりが「人生100年時代」の位置づけになっている。個別にこういったものを進めるのではなくて、一体化して進めるという趣旨で持続可能なというキーワードを入れた。

もう1つ、コーディネート機能を挙げた。それは、「自己実現から地域貢献へ」に位置付けられている。これは、どちらかという方法論の問題かと思う。なので、この表にテーマで入れようとするとうりづらいと思う。

【会長】 方法論の問題、持続可能な、あるいは一体化したシステムとかコーディネート機能、これは全てのテーマを進める上で重要なものということになると思う。これを、例えば6本目の柱に入れるやり方、あるいはこの5つの柱を縦として、横から方法論上のもので刺して、別立てで、そこはそこできちんとまとめるとか、いろいろ考え方はあると思うので、後ほど議論したい。

【B委員】 令和元年の6月に意見書をまとめたが、まず、これが着実に行政や財団の努力によって実践に移されたか、検証をすることである。これには時間がかかるが、まずはこれをしっかりやっていくということである。提言したものを、今年実際にやっていただいて、そしてその検証結果を来年以降しっかり見るということがとても大事だと思う。

私の提案は、生涯学習プラン2022から一度離れて、近未来の生涯学習の在り方について、日本各地の様々な取組、あるいは世界の取組なども見て、自由に議論をしていく、そんなことを一度やってみたらどうだろうかという提案である。今5つに分けられているものは、既に様々な議論されているもののどれかをもう少し深く見ていこうという観点だと思うが、そう

ではなくて、これから社会が変わっていき、それを見据えて、今後生涯学習というものがどうあったら私たちは楽しいだろうかということを含めてみんなで考えてみたらどうかというふうに提案させていただいた。その場合の2つの特色と、4つの重点というのを提案させていただいた。

1つ目は、既に話が出ているが、SDGsの考え方である。

2つ目は、「対話と連携による生涯学習」という考え方である。一つ一つの団体がいろいろやっても、広報をすとか、そういうことは一つ一つの団体ではできないので、やはり連携していく必要があるし、大学の様々な生涯学習の機関に市民が参加するといっても、ネットワークができていないと参加できないので、そのようなことを意味している。

そして、重点として、4つ挙げた。まず、人生100年時代の生涯学習。既に挙がっているが、私が意図したのは意味が少し違って、今までの生涯学習というのは、定年を迎えて、余暇をいかに有意義に過ごすかという観点だったと思うが、そうではなくて、これからはもう定年が70歳ぐらいになる。そうすると、余暇ということではなくて、仕事を含めていかに充実した過ごし方をしていくかということ。そういうことが、これからの時代は重要になる。だから、リカレント教育だとかキャリア支援ということがすごく重要になってくる。

2つ目は、ポストコロナ時代でのICTの活用である。

3つ目は、アクティブラーニングのことである。やはりまだ、多くの人数を集めてやろうとすると、どうしても講演のスタイルになるので、そうではなくて、各地域で行われている様々な趣味の団体だとか学習サークル、これが一番ベースになると思っている。

4つ目は、行政の役割の見直しということである。市民を主体にして、そして行政で幾つかの学習プログラムを用意して、皆さんがそこに参加してやっていくというスタイルではなくて、市民が主体となってやっていくのを行政が後ろから支えていくという仕組みである。そういう仕組みを、今後どうつくっていくか。そのようなこと含めて、近未来の三鷹市の生涯学習の在り方を探る、こんなことをやってみたらいいのではないかと思う。

【会長】 もっと自由に発想を湧かしてというのは、大事な点だと思う。そういう意味では、今日の資料2で出したものも、結論がこれというよりは議論の入り口がこれだということで、ここからどんどん発想を湧かして新しい三鷹市をつくろうという気概を持ってやりたいと私も思っているので、ぜひそういう形で議論できればいいと考えている。

言葉としてはかなり対応しているものが多いと思ったが、学習サークル、スウェーデンのスタディ・サークルと英語では言っている。日本の公民館の自主サークルのようなものと近いが、スウェーデンの場合は職場であったり、あらゆるところでの学習サークルに対して公的な助成金を出して、細かい学習サークルを基にしなから社会の基盤をつくっていくというような考え方で、かなり力を入れている。三鷹市もコミュニティの創生ということを生涯学習プランの最終的な一つの柱に掲げているし、国の小さなコミュニティづくりのようなものも、地方創生の中でかなり言われているので、学ぶということを通して楽しむというのはもっともだと思う。楽しんでるうちに学ぶわけなので、細かいコミュニティのような、サークルのようなものが多様にできていくということが一つの理想形にもなると思うので、この辺りの考え方も入っていくといいと思う。

この辺の行政の役割という問題を、意見書の中でどう取り上げるかということも議論できればと思っている。

【副会長】コーディネートの問題だが、コーディネートがしっかりしていないと実行はできないという提起を前回の提言書でしているのではないかと思う。持続可能な生涯学習体制の構築ということで、5つの項目を提案して、コミュニティ・スクールとも関係しているように書いてあるが、ここはコーディネートをうまくしていかないと、誰が推進させていくのだというところをすごく実感させられたことで、反省も含めて、どこの項目においてもまず、どこで誰がどのように進行していくのかというコーディネートの方法論というのは大事な観点だと思った。

また、「三鷹市がめざすビジョンを踏まえて、シンプルな提言としたい」と提起されているが、まさにそのこととも関わって、市民の方に理解しやすい提言でなければ活かされていないと思う。

資料2で、項目としてSDGsの関連性というものが表にはまとめられているが、三鷹市民だけではなくて、グローバルに地球全体で考えていく、そういう課題との関連性というのはとても大事な観点だと思う。しかし、SDGsの観点は、急に今回提案の中にこうして大きく取り上げていくのも、どうなのかと思う。市民に寄り添った提言のまとめ方ということ言えば、生涯学習プランの指針、その目標が私たち三鷹市民にとっては直近の課題でもあったりするし、具体的に目指すべきものが見えるところである。もしも関連づけるのであれば、生涯学習プラン 2022 のどこを目指してこの提言があるのかという、そういう関連性をつけたほうがシンプルな提言書にまとめられるのではないかと思う。でも、その中に、SDGsの項目が関わっているのだという、それは私たち人類がみんな考えていくべき問題であるので、そのことももちろん中に組み入れていってもよいかとは思いますが、ここにいきなりSDGsの関連というと、何かとても膨大な目標になり過ぎるかなと思った。

「需給融合型の学習活動の活性化」は、これまで私たちが目指してきた「学びと活動の循環」と大きく関わっている。これをもう少し市民サイドの活動と関わらせていくと、「需給融合型の学習活動」という具体的な活動が「学びと活動の循環」の一つになっていくのではないかということで、もっとこれを推進させていけたらという思いで取り上げた。新しい社会づくりにつながっていく「需給融合型の学習活動の活性化」というところが、全体の方向性として目指すべき共通点としてあるように思う。

必要なのは行動だということが、今回の提案の中での私の一番重要な意見である。行動することに学びがあり、行動することにつながりができていく。しかし、そこで大事なものは、何を学んで、何に向かって学んでいこうとしているのかという共有感や共通認識、まさにビジョンである。

「スクール・コミュニティ」において、学校とのつながりで活躍ができるとすれば、学校にとっても地域にとっても有意義である。例えば学習ボランティアとして登録し、学校に足を運ぶ機会、学校について知る機会、子どもたちと関わる機会につながることが期待される。これは、もちろん学校サイドとして、コミュニティ・スクールをつくっていくのには当たり前前の考え方だと思う。しかし、これは学校に出向かなければ、私たちは学校のことを知るこ

とができないということなのかというように読み取れないこともなくて、学校中心の考え方だと思う。今、三鷹市では学校3部制というものを進めているということであるが、学校3部制でいくと、3部目の活動というのは地域が主体となっていく、そういう制度になっていくように思う。そうすれば、学習ボランティアに登録するとかではなくて、むしろ市民サイドのほうから提起をして、学校という施設を活用する。社会教育委員、生涯学習審議会委員の視点からは、むしろそういう提起になるのではないかと思う。

「スクール・コミュニティ」の中の記載についても、もっと地域が目線、市民が目線から見た学校の活用の仕方、学校の施設の活用、そういうことを提起していくという観点で、コミュニティ・スクールを「スクール・コミュニティ」という部分は、もっと視点を変えたまとめ方が求められていくのではないかと思う。具体的に言うと、1つは、地域からこれをやりたいと持ち込むということ。そのようなことが需給融合型の一つの学習活動の姿としてはあるのではないかと思う。地域の団体ではなくて、自主サークルからコミュニティ・スクールづくりにもっと参加できるようにコーディネートというものが推進されていくと、より具体的な需給融合型の「学びと活動の循環」と、地域と連携して地域をつくっていくということにもなっていくのかなと思った。

そのことと関わるが、市民の自主的な活動の支援に取り上げられている「第3段階の施策・事業を充実させる」という、そこで言う市民というのは、住民協議会などの地域団体、NPO法人の市民活動、地域社会全体に関する貢献活動を行っているような企業というふうに書いてあるが、自主学习サークルも加わっているのではないかと思った。

コーディネートが必要だと思ったSDGsのカリキュラムづくりのところだが、1、2、3、4、5という課程は、まず会議があって、SDGsにはどういうものが必要なのかという児童、教師、地域住民で考える会議を持つというのがまずあるが、それだと上から下ろした形になってしまうのではないかと思う。カリキュラムが必要なことは分かるので、ESDのカリキュラムづくりの委員を別に立てて、その委員たちにカリキュラムをつくってもらおう。そのときには、アンケートを児童や教師や地域住民を対象に実施してニーズを尋ねるといった方法のほうが、コーディネートもしやすいと思う。

「スクール・コミュニティ」の項目のところ为学校目線だというか、全てに教師が関わるように書かれている。教師をいろいろなところに引きずり込むのではなくて、むしろ地域が主体となって、地域の住民たちのほうから、教師たちにはアドバイザーとかオブザーバーという形で参加してもらい助言をしてもらうというような関わり方を、捉え直して進めていくということが、学びを中心としたコミュニティづくりにもなっていくと思う。「スクール・コミュニティ」のところにも、「需給融合型の学習活動」というものを入れていただけたらと思った。

最後にもう1つ、大沢台小学校の校長先生の言葉を提言の中にも入れられればよいと思った。「三鷹のこれからの教育を考える研究会の最終報告書に、個人と社会のウェルビーイングの実現を目指すことが示されています」というものである。三鷹のこれからの教育を考える研究会の提言は、「スクール・コミュニティ」を実現していくためには目を通しておこなうてはいけないと思う。その中で提言されている「ウェルビーイングの実現」を、提言の中

に入れていけるといいと思った。

【会長】我々の社会がどうあるべきかを考えたとき、今のウェルビーイングの観点はとても重要である。

もう1つは学校の問題で、実は、文部科学省は「学校を核とした地域づくり」というふうに言っているので、前回の提言書もそういうタイトルを使った。しかし、岐阜県のある村では、学校を核としたと言うと住民が盛り上がらないが、子どもを核としたと言うと、みんな喜んで集まってきた。学校に引っ張られるのではなくて、我々コミュニティ、地域が基盤であり、そこに学校を引っ張り込むとか、そういう観点から学校にいろいろな提案をするというようなことである。

そのほか、行動が必要ということ。何に向かって学ぶかとか、今までは市民というNPO法人や地域団体と学校をいうが、もっと小さい学習サークルとか、その辺りにももっと焦点を当てようではないかということである。

【C委員】私は、子どもを核としたコミュニケーション、連携づくりというのをテーマに3つ挙げた。

1つ目は、全世代共通の学習をコミュニケーションの中心に置いたコミュニティづくりである。教育文化の継承ということがとても大事だと思う。生涯学習というと高齢者の仕事の後というイメージがどうしても強いが、子どもや子育て世代が参加しやすい時間帯とか場所とかを設定して、そこに高齢者が発表していくという形のコミュニケーション、コミュニティがくれたらと思う。

2つ目は、アクセシビリティということがすごく大事だと思っていて、資料2の表の4「情報化」の「アフターコロナ」の後に、ぜひアクセシビリティも入れていただきたい。コロナ禍で、私たちはICTとかデジタル化の技術を勝ち取ることはできたが、同時に情報弱者と呼ばれる方とか、そこを使いこなせていない障がいをお持ちの方とか、使いこなせる者とうではない者がすごくはつきりしてしまったので、今回計画を立てる段階において、ぜひ丁寧に、弱者が生まれないようにとか、弱者に届けるためのICTの活用とかも、入れていただければと思った。

3つ目は、「人生100年時代」の生涯教育ということで、自己実現の学習から、地域にそれをどんどん発表していく。それを、子どもを育てるところにつなげていくという視点で入れてほしい。表の3の補足に「高齢者」と書いてあるが、ここにぜひ子どもとか子育て世代とかも入れていただいて、「人生100年時代」の生涯教育は高齢者から始まるのではなく、働いているときからでもなく、子どものときからずっとつながっていく教育というふうにしていただきたい。ぜひ、高齢者と子どもが一緒になって、子どもから生涯教育というものを感じられるように、一緒に学び合える世代間交流ができればいいと思う。

【会長】子どもから大人まで人生にわたって学ぶということが生涯学習の根本的な概念である。「人生100年時代」というのは、高齢者に焦点が当たると先ほど私は言ったが、当然今言われたように、子どもから大人、高齢者まで、そしてまたその真ん中に子育て世代が入ったり、若者が入ったり、働き盛りが入るといことがある。

「学びと活動の循環」の中には、子育てにつながるということが大事だということも、今

受け止めた。また、情報化の中のアクセシビリティでは、情報格差の解消を含めるということも非常に大事なポイントだと思う。

【D委員】三鷹市が「スクール・コミュニティ」というのを率先して始めたということで、「スクール・コミュニティ」ということに対して思い入れが強いというのもすごく理解しているが、立ち上がったときからだいぶ時間がかかっている、今の子育て世代というか、小学校に通っている保護者の目線で実際これをどう感じているのかというのは、つくられた方たちの目線と変わっていたり、時代も変わってきている。なので、子育て世代にコミュニティ、学校中心というよりは子ども中心で、どういった形であれば地域と保護者と学校と連携できるのかというのを具体的に提案していけたらいいのではないかと思った。

また、「人生 100 年時代」で、先ほど言われていたように、子育て世代というところをぜひ入れていただきたい。また、木登りをする場所がないとか、子どもが体を動かすことや公園で遊ぶことができないような状況なので、大人になったときに、いろいろな環境を体験できるような形での支援もできたら、子どもにとっても、地域や自分が育った環境を見直していけるのではないかと思う。

私は駅前の住民協議会に所属しており、小学校との連携等はあるが、活動できる人が偏っているので、実際子育て世代の、働く保護者がとても多い中で、地域に関わることがどこまでできるのかというのがなかなか難しい。コロナ禍で、オンラインだったら参加できるとか、在宅だから地域に興味を持ったという方たちもたくさんいるが、今働く子育て世代が地域だったり学校にどう関わっていくのかというのはなかなか難しい問題であり、現状と理想とするところのすり合わせが難しかったり、そういったところができるような提案をしていければいいと感じた。

【生涯学習課長】「人生 100 年時代」については、補足のところに高齢者と入れたが、高齢者だけのものではなく、子どもから大人、大人から高齢者という捉え方で考えていただければいいかと思う。

「新たなコミュニティ」のところに、住民協議会ということで入ってきているが、設立してからかなり年数が経っているので、住民協議会自体がいろいろな問題を抱えているというのが現状である。なので、それを生涯学習という側面で、これからどうあってほしいかということをごちから提案することはすごくいいことだと感じた。

【スポーツと文化部長】「情報化」について、ほかのものとは少しニュアンスが違って、ある意味活動のベースメントになるものである。なので、生涯学習の中身の問題と、手法の問題、方法論の問題ということは、同時並行的に語られると厚みが増すのではないかと思った。

それから、「スクール・コミュニティ」のことを扱っていくときに、当然教育委員会からは学校を中心にした視点で考えていくと思う。しかし、この場が生涯学習・社会教育の審議会だということもあるので、コミュニティの視点、生涯学習の視点から「スクール・コミュニティ」を見るというような、視点を変えて提言をしていく。ここの場での議論が学校に準拠したような発言である必要はなくて、むしろそうではないほうがよい。

学校3部制で、学校の建物自体を地域のインフラとして一部、放課後や夜間、もしくは土日休日などに地域でシェアしていこうという考えを、今教育委員会は持ち始めている。そこ

で、地域のほうから学校の在り方に望む生涯学習的視点というものを提案していくことは、生涯学習、もしくは生涯スポーツも含んで、挙げるべき議論かなと思ったので、「スクール・コミュニティ」で普通に行われていることの裏返しの議論というようなものを、ぜひ皆様にお願ひできればと思った。

【会長】方法論という面で、「情報化」もある意味確かに方法論だが、広報をどうするかというのとは一つの課題でもあるし、オンライン学習は恐らく一つ取り上げて重要なテーマになるかなという気もするので、方法論でもあり柱にもなるというような気もしている。

コミュニティ・スクールは、まさに地域と学校が連携するものなので、生涯学習課の役割は非常に大きい。また、住民協議会も生涯学習課も一般行政にあるので、コミュニティ行政との連携は取りやすいのではないかと考えている。学校や住民協議会に積極的に関わりながら、あくまでも生涯学習という立場から、住民協議会であったり学校であったりというものにアプローチするというような提案ができるといいと思う。

いろいろとご意見を伺ったが、2通り考えるべきことがある。

1つはこちら側で出した5本の柱をより豊かにするという意味で、例えば「学びと活動の循環」には子育てにつながるような内容を含めるとか、「スクール・コミュニティ」の中には需給融合型も含めるとか、コミュニティ・スクールの検証も必要ではないかとか。「人生100年時代」には子どもから含めて若い層を入れるべきだとか、「情報化」にはアクセシビリティが重要だとか、「新たなコミュニティ」には住民協議会にも視野を広げていこうとか、そういうものが増えてきたので、この辺りはもっと充実した形で5本柱を設定していけるということだと思う。

一方で、こちらから出した5本柱に含まれない、方法論の問題として、特にコーディネート機能であったり、持続可能性とか一体化システムとか、そういう問題がある。行政の役割をどうするかという問題、それからウェルビーイングという考え方である。さらには、学習サークル、あるいは学習グループをどうするかというのも出されていたかと思う。

5本柱について議論しながら出てきた問題を、行政の課題やコーディネート機能の課題という面から拾っていき、最終的には横串的な形で、5本柱を支えるような形で考えていけるのかなと考えている。

学習サークルとか学習グループのことは、「学びと活動の循環」の中に入れながら、学習サークルの問題を議論していくということでもいいのかなと考えている。また、「新たなコミュニティ」にも入ってくるかもしれないと思う。

ウェルビーイングの問題は、これも横串的なことかもしれない。これからの社会はどうあるべきかということにもなってくるので、その辺りを積極的に議論いただいて、全体に広げられるべきであれば全体を覆っていくような形でもいいかと思う。

今日、テーマというか、入り口をある程度固めて、次回までにグループ編成をしたい。まず5本柱については、テーマとして書いたものはあくまでも入り口だと捉えていただいて、ここから出発して議論していただく。内容は今日出た意見を踏まえながら充実させていくことにして、横串的なテーマとして持続可能性とか一体化とかコーディネート機能、さらには行政の役割といったものを、各グループの意見の中で出てきたら拾っていき、最終的に意見

書の中に別立てで位置づけるという考え方でいかがかと思う。

【生涯学習課長】テーマが決まったので、グループ編成をしたい。皆さんの希望を伺いながら、学識経験者、社会教育を含む生涯学習の関係者等を参考に、グループ分けをさせていただきたい。

3 報告

【生涯学習課長】東京都市町村社会教育委員連絡協議会の定期総会が、4月23日（土）午後1時から、府中市市民活動センターにて開催予定である。

4 その他

次回は、令和4年4月15日（金）午後6時30分から、生涯学習センターで開催を予定

—閉会—